

科目	単位	時間	履修学年	講師名
在宅療養を支える看護 I	1	30	2	
ねらい	在宅看護介入時期別の特徴について学び、事例をもとに必要な援助技術について学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	1.療養者の日常生活を「生活行為」として総合的に捉える	講義 グループワーク		
2回目	1)必要な介助を見極めるための動作分析について考える 2)訪問看護師に求められるコミュニケーション			
3回目	2.導入期の訪問看護 1)訪問看護の対象と利用できる制度 2)加算条件の違い	講義		
4回目	3.事例を通して活動制限のアセスメントと生活行為への支援	講義・演習		
5回目	1)ALS療養者の在宅看護(難病)			
6回目	(1)在宅酸素療法			
7回目	(2)在宅人工呼吸療法(HMV)・ (3)NPPV(非侵襲的陽圧換気療法) (4)排痰法			
8回目	2)食生活、嚥下に関する在宅看護技	講義・演習		
9回目	(1)摂食・嚥下障害 (2)口腔ケア (3)在宅経管栄養法 (4)在宅中心静脈栄養法 HPN			
10回目	3)頸髄損傷療養者			
11回目	(1)褥瘡の予防とケア(ストーマケア含む) (2)トランスファー・			
12回目	(3)おむつ交換・膀胱留置カテーテルの管理 4)日中独居の認知症療養者 (1)認知機能のアセスメント方法と援助	講義 講義 講義 講義		
13~14回目	5)在宅におけるエンドオブライフケア (1)終末期のアセスメント、本人や家族の心のケア			
14.5回目 (45分)	(2)疼痛緩和のアセスメントと疼痛コントロール (3)グリーフケア	試験		
15回目	終講試験			
教科書	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア(メディカ出版) ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術(メディカ出版)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分間】:100点)			
備考				